



事業計画および成長可能性 に関する事項について

2024年10月
証券コード: 4422

VALUENEX

1

当社概要

2

事業内容

3

事業計画・成長可能性

当社概要

社名	VALUENEX株式会社		
事業内容	アルゴリズム事業	設立	2006年8月1日
所在地	東京都文京区小日向4丁目5番16号		
資本金	81百万円（2024年7月31日現在）		
連結子会社	VALUENEX, Inc.（100%子会社） ※カリフォルニア州パロアルト		
従業員数	連結35名、単体30名（2024年7月31日時点） ※役員除く		

役員

中村 達生	: 代表取締役社長 CEO / 工学博士
鮫島 正明	: 専務取締役 CFO / MBA
本多 克也	: 常務取締役 先進情報学研究所長 / 工学博士
片桐 広貴	: 取締役 CTO / 工学修士
瀧口 匡	: 取締役 経営企画担当 / 経営学博士
鈴木 理晶	: 社外取締役 / 弁護士
松田 均	: 社外常勤監査役 / 公認内部監査人
花堂 靖仁	: 社外監査役 / 大学名誉教授
宮内 宏	: 社外監査役 / 弁護士

VALUENEXは、世界に氾濫する情報から「知」を創造していく企業です。

全ての人が情報を最大限に活用する未来へ。

現代社会は情報過多の時代です。しかし、その大量の情報を適切に処理・解析できる能力が個々人に求められる一方で、情報の偏りがないことを確認することも同時に重要となっています。しかし、現状ではこれらの能力に格差が生じ、情報の活用が限定的となっています。

VALUENEXは、世界中の誰もが大量かつ必要十分な情報を独自に解析し、得られた知見を起点として新しいアイデアやコンセプトを生み出すことができる世界を実現することで前述の課題を解消し、知の創造を促進します。

誰でも知を創造できる世界の実現に向けて、私たちは情報と知識の世界において持続可能な変革と発展のために努力し続け、「知」を求める全ての人に価値を提供します。

VISION .

我々は、世界に氾濫する大量の情報を
「信頼性」、「俯瞰性」、「客観性」、「正確性」、「最適性」
の5つの独自の視点で融合し、価値を創造する企業です。



我々は、世界に認知される企業を目指します。



我々は、自ら考え、自ら行動する企業を目指します。



我々は、「知」を求める全ての人に価値を提供します。

沿革

- 2006年8月 ● 株式会社創知（現当社）を設立（本店 港区赤坂）
- 2007年4月 ● 特許可視化ツールサービス提供開始
- 2008年5月 ● 港区六本木へ本店移転
- 2009年6月 ● 文京区小石川へ本店移転
- 2012年11月 ● TechRadar® をクラウドサービスにより提供開始
- 2013年7月 ● 文京区小日向へ本店移転
- 2013年11月 ● DocRadar® をクラウドサービスにより提供開始
- 2014年1月 ● 社名をVALUENEXコンサルティング株式会社に変更
- 2014年2月 ● VALUENEX,Inc.（米国）設立
- 2014年11月 ● TechRadar® / DocRadar® にダッシュボード機能追加
- 2015年7月 ● 社名をVALUENEX株式会社に変更
- 2016年1月 ● VALUENEX,Inc.（米国）の全株式を取得し、100%連結子会社化
- 2017年7月 ● TechRadar® / DocRadar® のユーザインターフェース2.0バージョン提供開始
- 2018年10月 ● 東京証券取引所マザーズ市場に株式を上場
- 2022年4月 ● 東京証券取引所の市場区分の見直しにより、マザーズ市場からグロース市場へ移行

上場後の主な活動

- 2019年3月 ● 当社代表取締役が特許情報普及活動功労者に表彰
- 2019年8月 ● スタンフォード大学による“Japan-US Innovation Awards 2019 - Innovation Showcase”を受賞
- 2021年9月 ● シリコンバレー進出を目指す日系企業や現地駐在員が提携先や投資対象先となり得るスタートアップやメンターと出会うことができるサービス「Insight CAFE」をスタート
- 2022年3月 ● VALUENEX, Inc.とGRC(カリフォルニア大学バークレー校)が業務提携
- 2022年2月 ● スタンフォード大学主催の2022ハッカソン(ソフトウェア開発イベント)にスポンサーとして参加
- 2022年8月 ● Q2B22 Tokyo「量子コンピューティングの実用に向けて」に弊社CEO中村が登壇
- 2022年11月 ● IR資料向け研究開発・知的財産投資への訴求を支援するサービスを開始
- 2023年2月 ● スタンフォード大学主催の2023ハッカソン(ソフトウェア開発イベント)にスポンサーとして参加
- 2023年8月 ● Q2B23 Tokyo「量子的価値へのロードマップ」に弊社Choi Jiyoungが登壇
- 2024年1月 ● 「VALUENEX Radar Fusion」β版テスター募集
- 2024年2月 ● スタンフォード大学主催の2024ハッカソンにスポンサーとして参加
- 2024年4月 ● VALUENEX Radarに生成AI(Area Summarizer)を搭載し、俯瞰解析を効率化
- 2024年7月 ● 開発現場で活用される品質表を自動生成するツール(Radar QFD)開発着手

1

当社概要

2

事業内容

3

事業計画・成長可能性

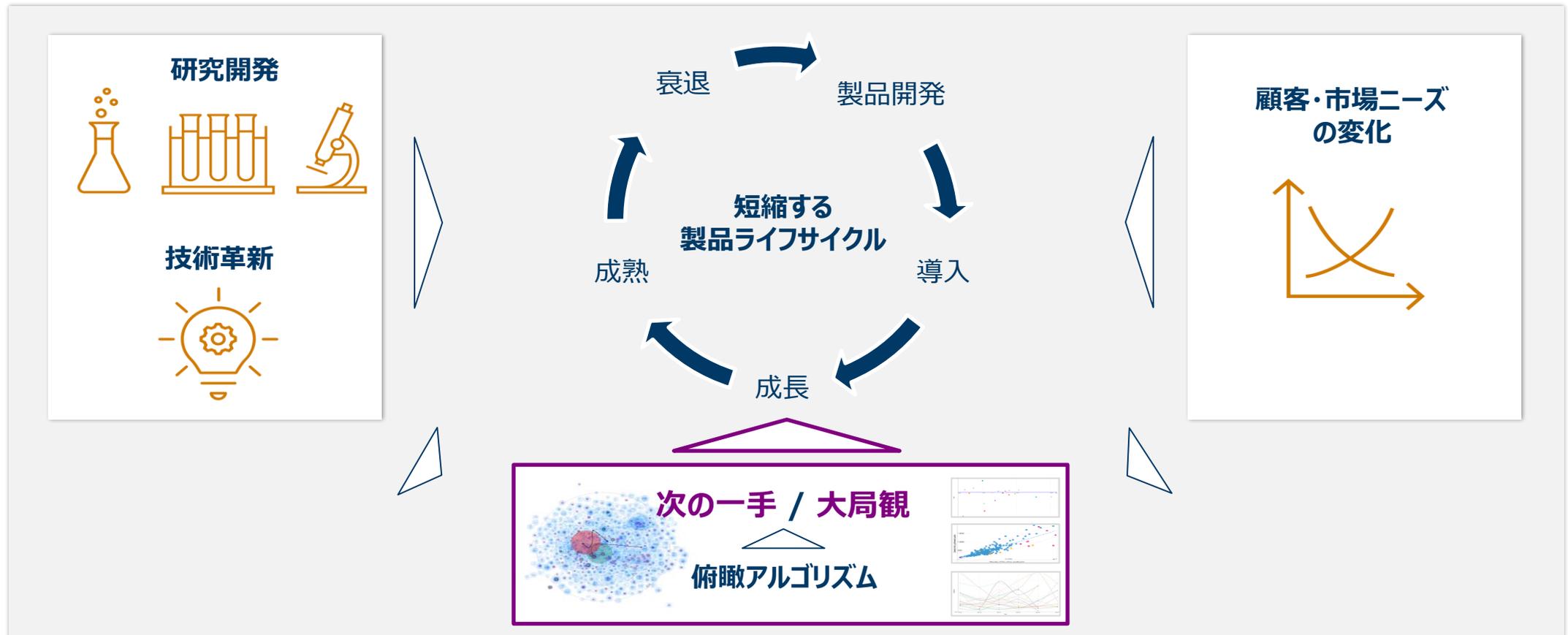
主要サービスの概要

大量のテキストデータを一枚の俯瞰図として高精度に可視化・解析する俯瞰解析を通じて、お客様の経営戦略やR&D戦略に資するアウトプットを提供いたします。

サービス	① コンサルティング	② ASP
概要	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 当社がお客様のご要望に応じた調査・分析を実施し、課題を解決。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ クラウド経由でテキストデータの俯瞰解析ツールを提供。 ✓ お客様ご自身でツールを利用し課題を解決。
主な対応テーマ	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>事業戦略</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>R&D イノベーション戦略</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>知財ポートフォリオ (IPランドスケープ)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>技術動向調査</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>M&A デューデリエンス</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>投資戦略/ 無形資産評価</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>スタートアップ探索</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>マーケット分析</p> </div> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 10px;">※ASPサービスは、対象となるテキストデータをお客様が保有していること、一部テーマは専門的な解析手法の習得が必要です。</p>

サービスコンセプト「次の一手に大局観を」

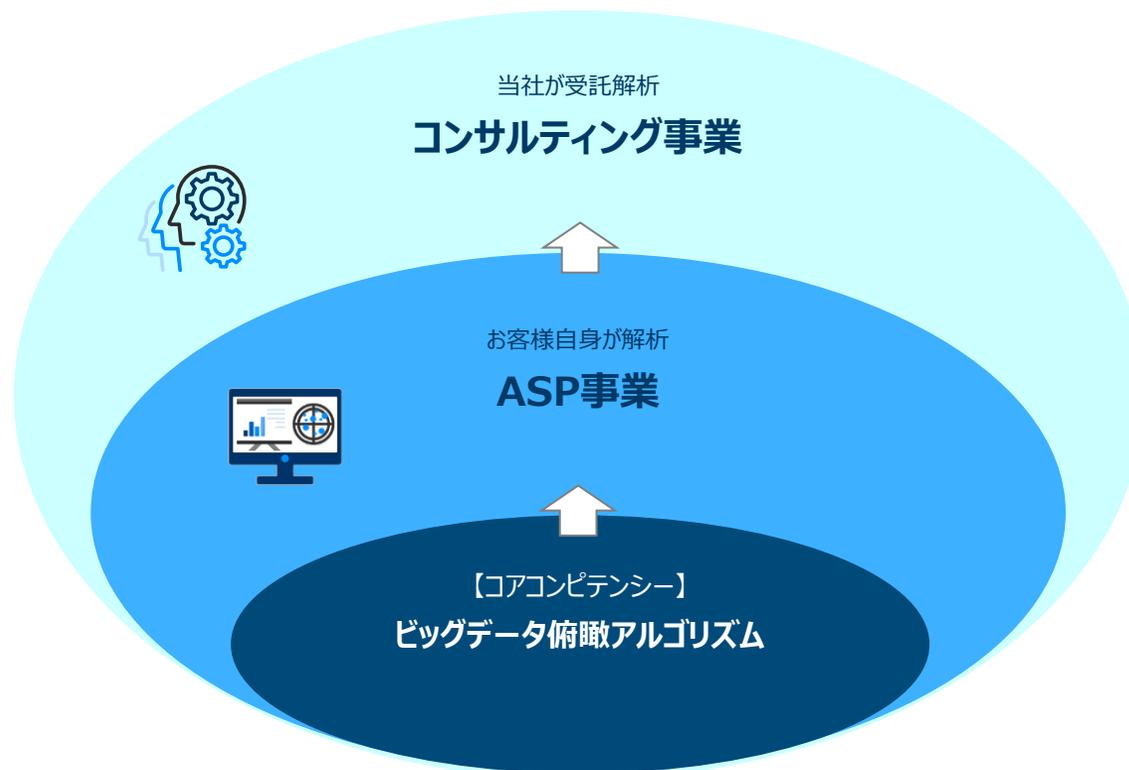
イノベーションは既存の技術・知識や市場ニーズのユニークな組み合わせによって生まれます。その組み合わせ（次の一手）の探索に、勘やセンスだけでなく、ビッグデータに裏付けられたエビデンスの提供が、当社の役割です。



当社アルゴリズム事業

当社アルゴリズム事業は主に以下から成り立っております。

- ・ 俯瞰解析アルゴリズムを活用したコンサルティング事業
- ・ 当該アルゴリズムを根幹とするASP事業※



※ ASP = Application Service Providerの略。インターネット等のネットワークを通じてアプリケーションソフトウェアを提供するサービス

当社オリジナルのアルゴリズム特徴

多角的な解析を可能にする「精度・量・スピード」に特徴があります。

大量のテキストデータをスピーディに精度良く可視化し、マクロからミクロまで抜け漏れなく多角的な切り口での解析を可能にしています。

精度

テキストデータを余すこと無く活用し、独自のアルゴリズムで高解像度な可視化を実現



データ量

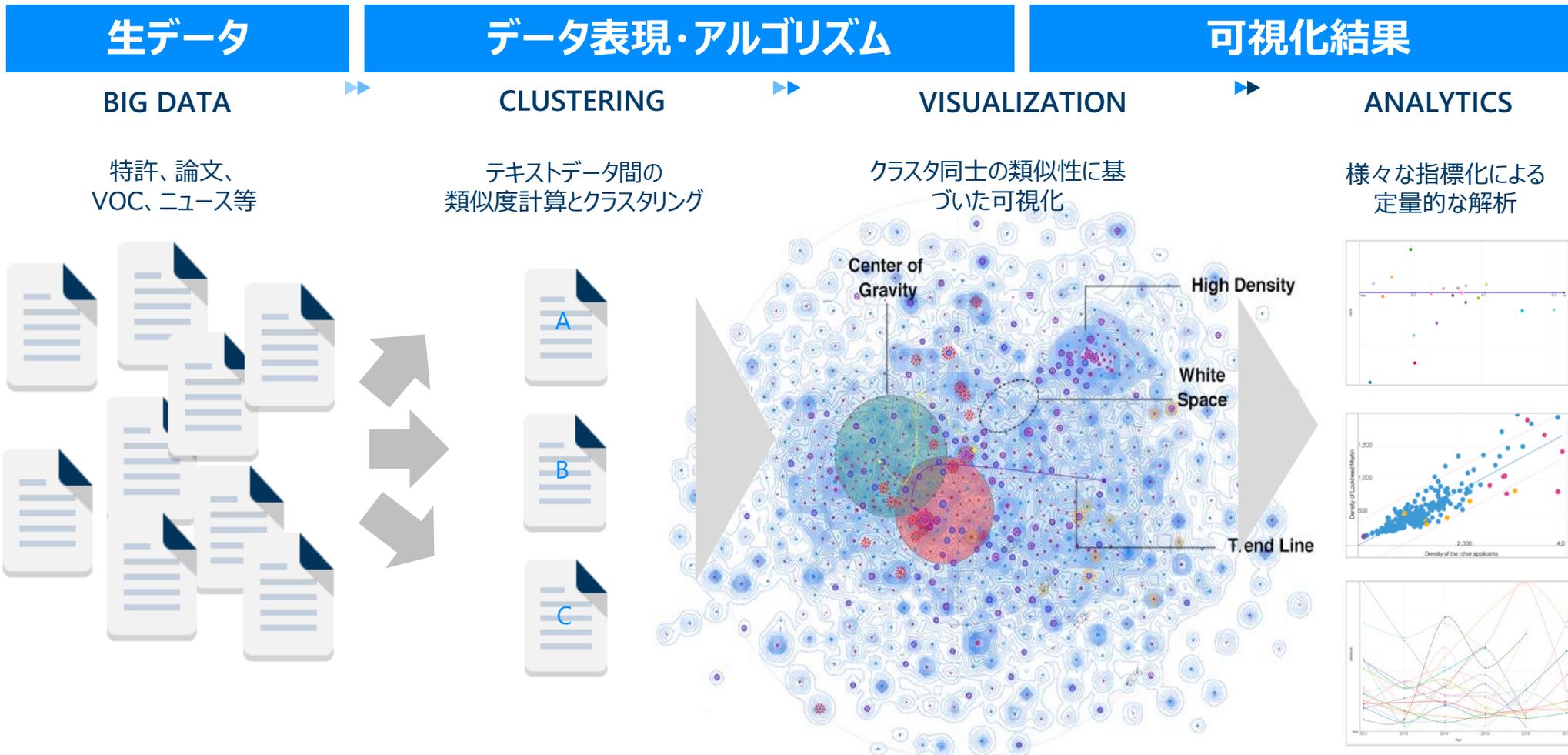
最大10万件のテキストデータを一枚の俯瞰図で表現

スピード

クラウド環境下における並列計算処理によって高速化を実現

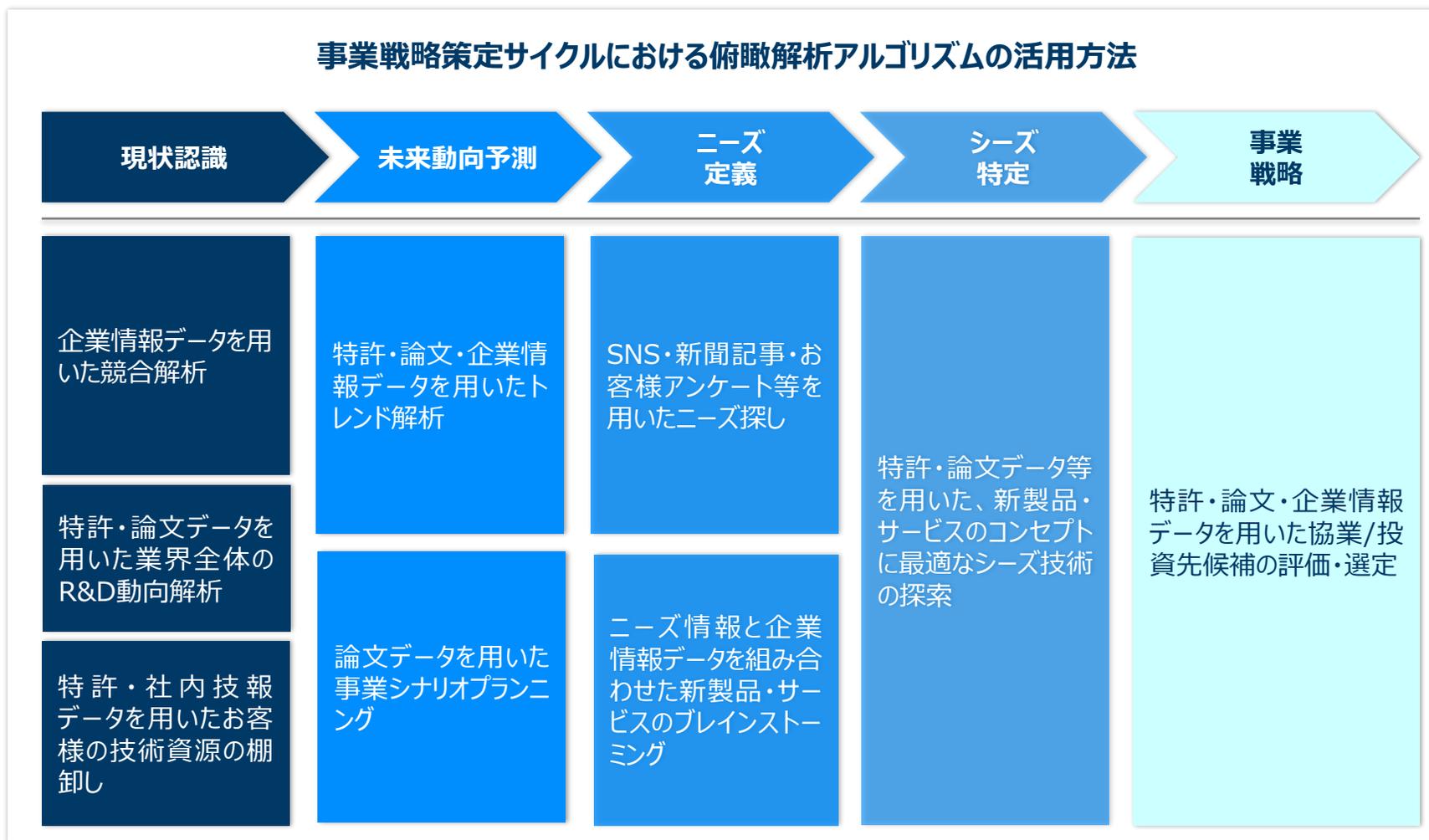
VALUENEXツールの概要

大量のテキストデータ同士の類似性を可視化した俯瞰図により、テキストデータの全体像を把握する手法です。これにより、知的財産、研究開発、マーケティング等に資する知見の獲得が可能です。



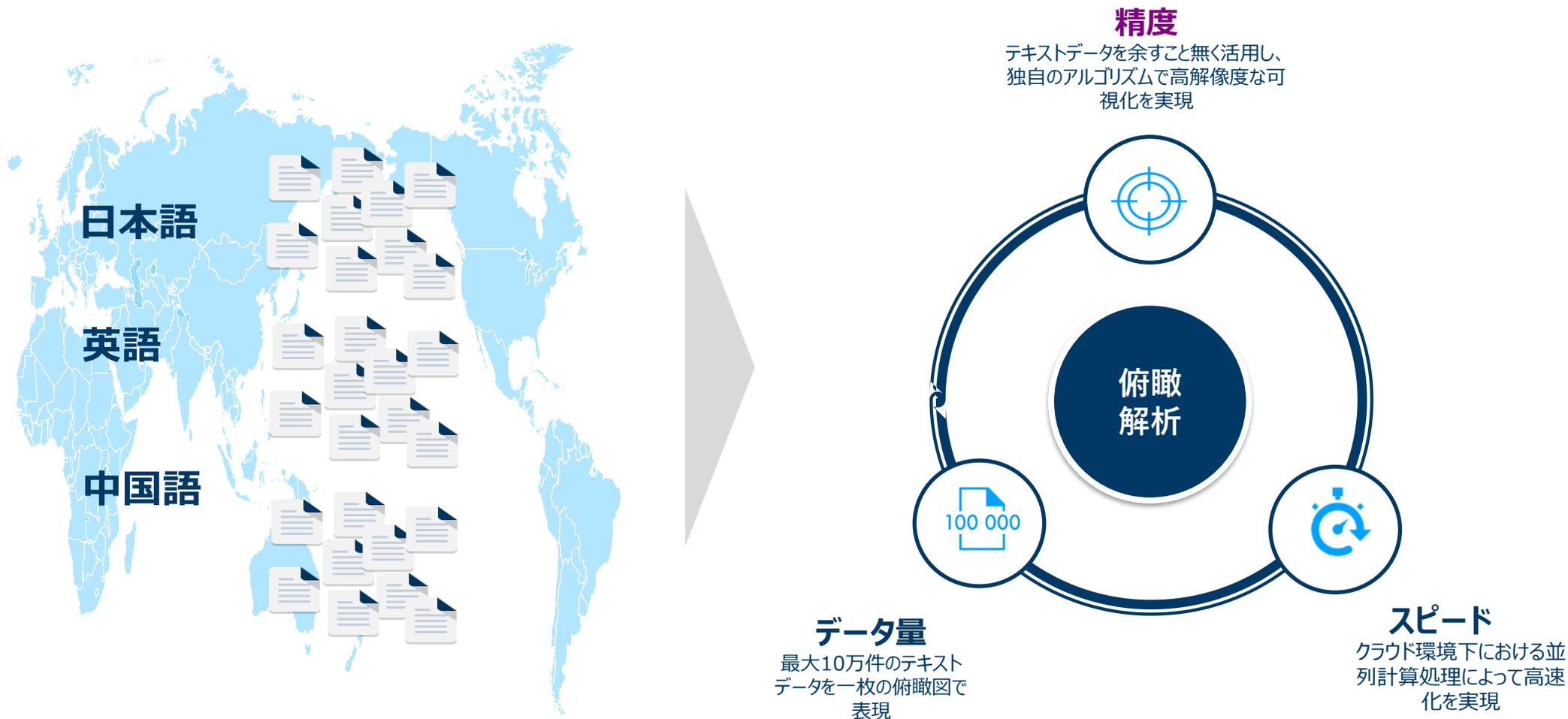
当社アルゴリズムの戦略活用例

お客様の戦略策定において、各フェーズに適したアルゴリズムの活用をご提案しております。



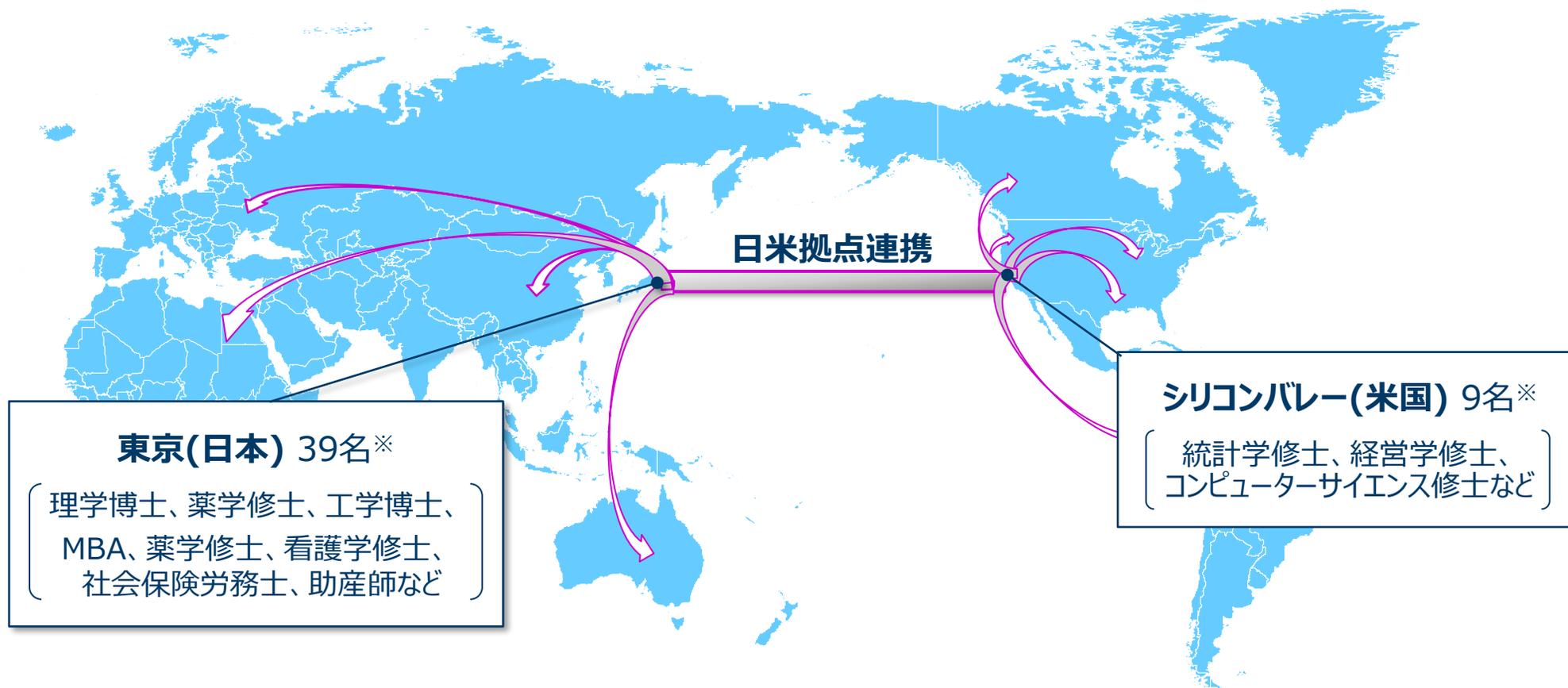
当社の強み①：他言語かつ高精度なオリジナルアルゴリズム

日本語・英語・中国語に対応しており、グローバルな分析が可能です。
特に、解析における「精度」に高評価をいただいております、オリジナルの強みがあります。



当社の強み②：グローバルな事業体制

東京およびシリコンバレーに拠点を置き、多様かつ専門性の高い人材を揃えることで、グローバル展開をする日本企業を中心に国内外のお客様を支援してまいります。



*2024年7月末時点（役員・非常勤含む）

当社の強み③: 豊富な製品・サービス提供実績

さまざまな業種において、国内の東証プライム上場のお客様を中心に、数多くのコンサルティング案件および当社ソフトウェアをご提供しております。

【業種】 化学 / 電気 / 自動車 / 食品 / 製薬 など (知財部門等)

【用途】 経営層の意思決定や戦略立案 (経営・事業企画 / R&D戦略 / IPランドスケープ など)

【対象】 主に技術文献 (特許・学術論文)



341

企業・団体

2024年7月31日現在



53%

Fortune Global 500
ランクイン日本企業



26

業種

2024年7月31日現在

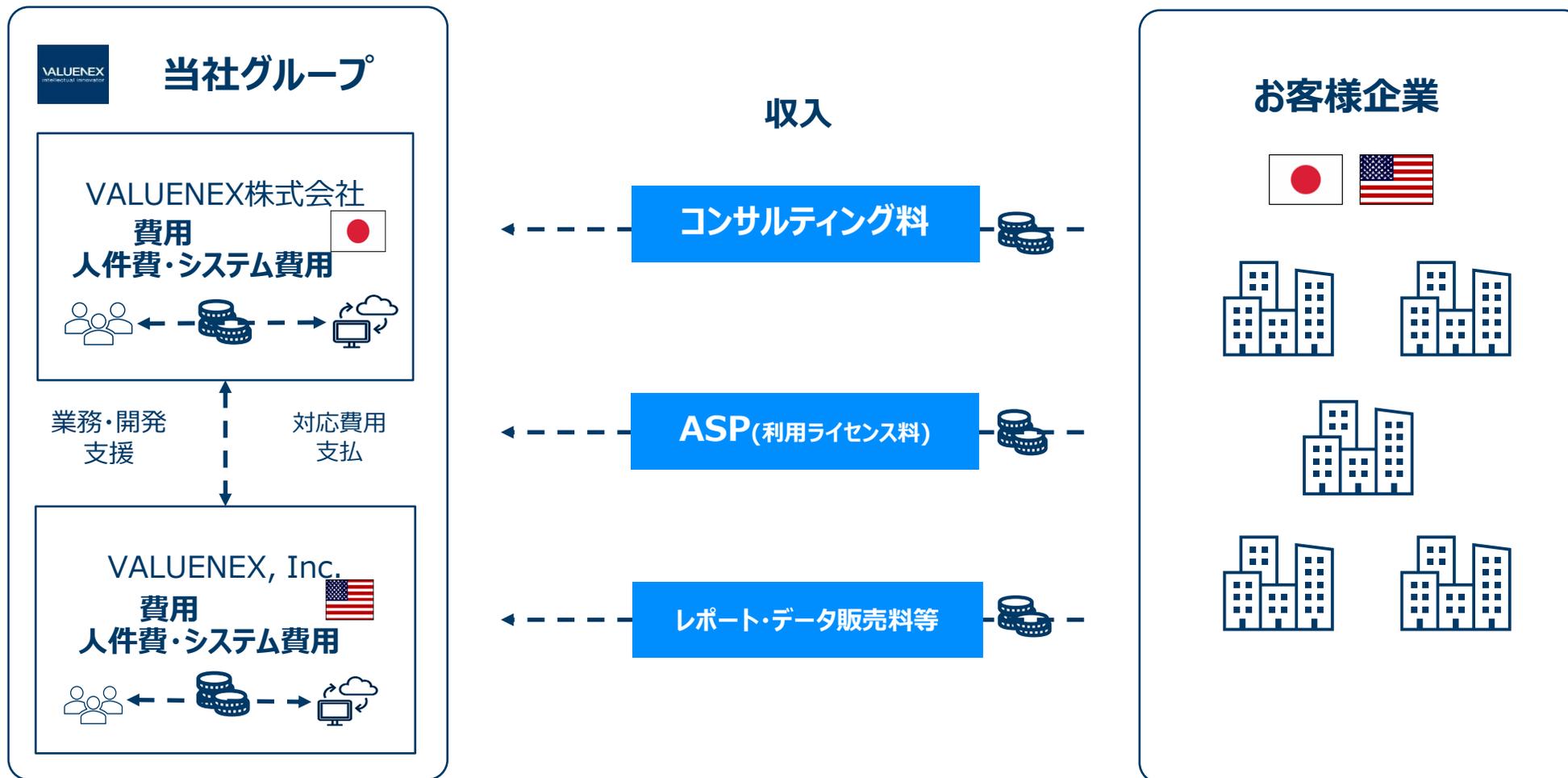


79%

Clarivate Top 100
Global Innovators™ 2024
ランクイン日本企業

収益構造

主な収入は、コンサルティングおよびASP(解析ツールライセンス料)です。
 主な費用は、人件費およびシステム開発・維持管理(クラウド利用料等)費用です。



1

当社概要

2

事業内容

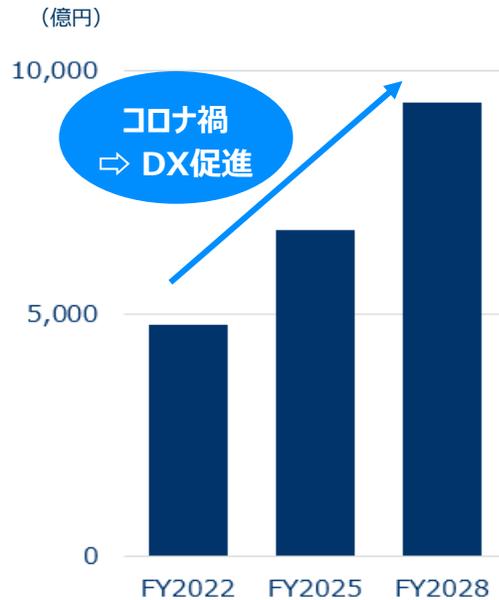
3

事業計画・成長可能性

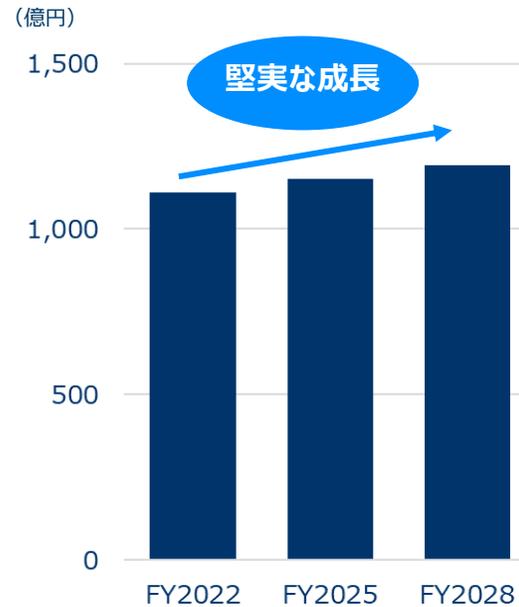
国内市場環境

当社の主な国内関連市場（ビジネス・アナリティクス、特許情報提供サービス、デジタルコンサルティング）は、コロナ禍におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の促進を受け、成長基調にあると見ています。

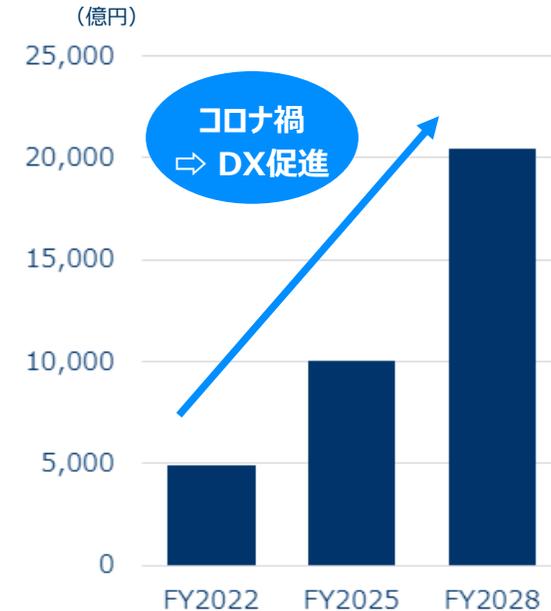
ビジネス・アナリティクス市場



特許情報提供サービス市場



デジタルコンサルティング市場

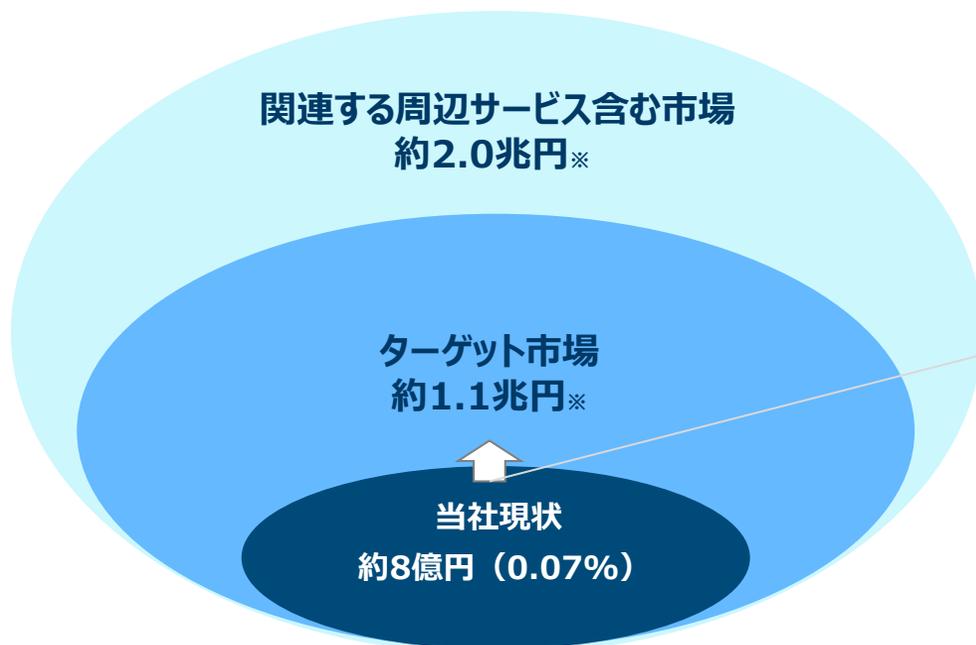


※デロイト・トーマツ・ミック経済研究所「ビジネス・アナリティクス市場展望(2022年度版)」, 特許庁「特許情報提供サービスの現状と今後に関する調査(令和4年度)」を基に当社作成
特許情報提供サービスの市場規模算出にあたっては、同調査報告書にある2015-2022年度の市場規模から割り出した年間平均成長率を使用

※出典：IDC Japanプレスリリース「国内コンサルティングサービス市場予測を発表」(2021年7月1日)を基に当社作成
デジタルコンサルティング市場の算出にあたっては、同予測から割り出した年間平均成長率を使用

ターゲット市場規模

当社がターゲットとする市場は、ビジネス・アナリティクス、特許情報提供サービス、デジタル関連コンサルティング市場であり、約1.1兆円ございます。2024年7月期の当社売上高およびシェアは約8億円、**0.07%**でした。



	R&D 部門	知財 部門	経営企 画部門
新規 価値 提供			
既存 価値 提供			

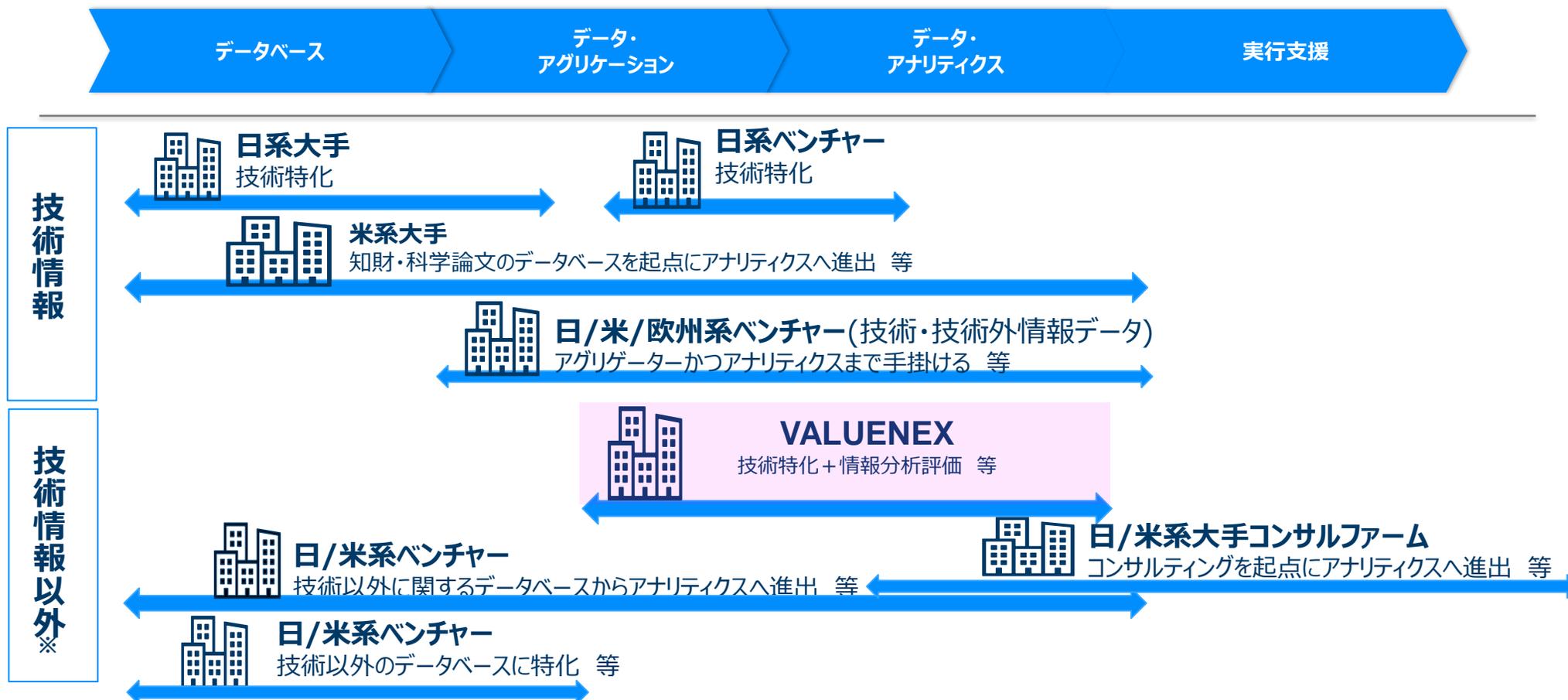
↑
↓
← 当社 (現状) →

現状得意とする知財部門からR&Dや経営企画部門に水平展開するほか、新規の価値提供も開発し市場シェア拡大を進める。

※デロイト・トーマツ・ミック経済研究所「ビジネス・アナリティクス市場展望(2022年度版)」、IDC Japan 2021レポート、特許庁「特許情報提供サービスの現状と今後に関する調査(令和4年度)」を基に当社作成

国内外の競争環境

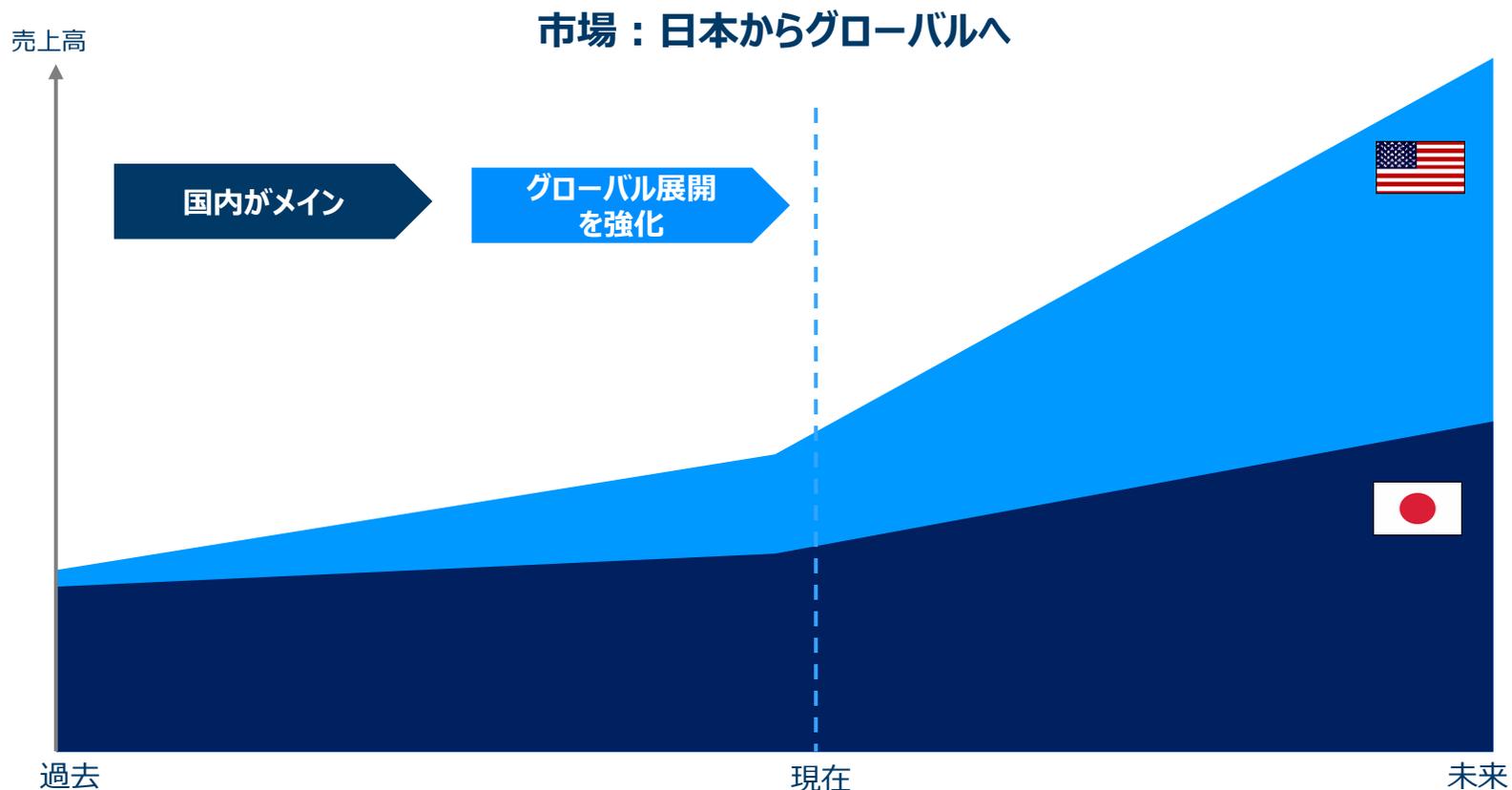
当社はビッグデータ解析の国内黎明期にいち早く市場参入しましたが、国内外での新規参入企業が増加しております。また、各サービスをバンドル化することで差別化を図る動きもみられます。



※投資情報、市場レポート、M&A動向、企業情報、ニュース、ブログ、SNS、治験、診断情報 等

今後の事業成長イメージ①：ターゲティング

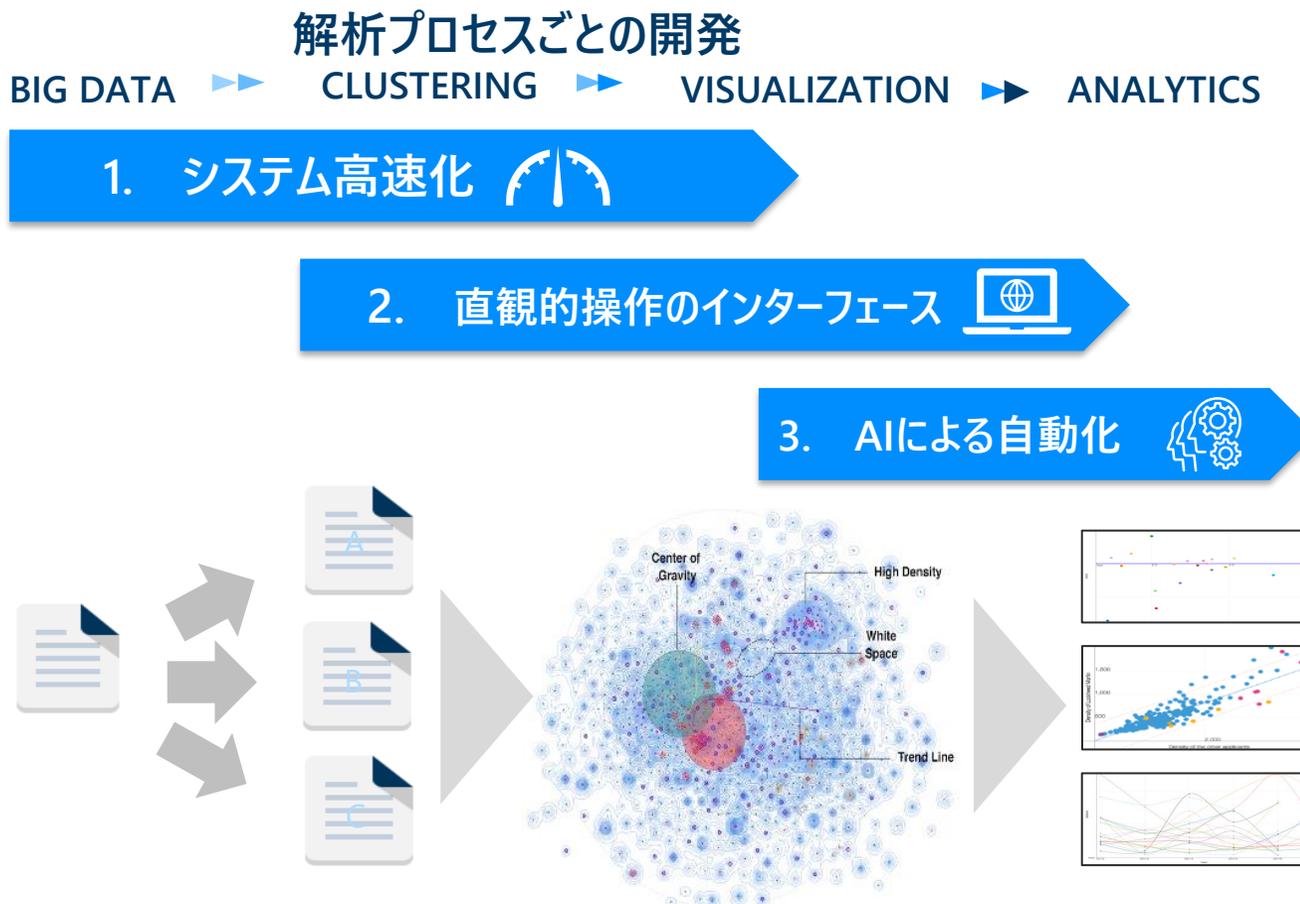
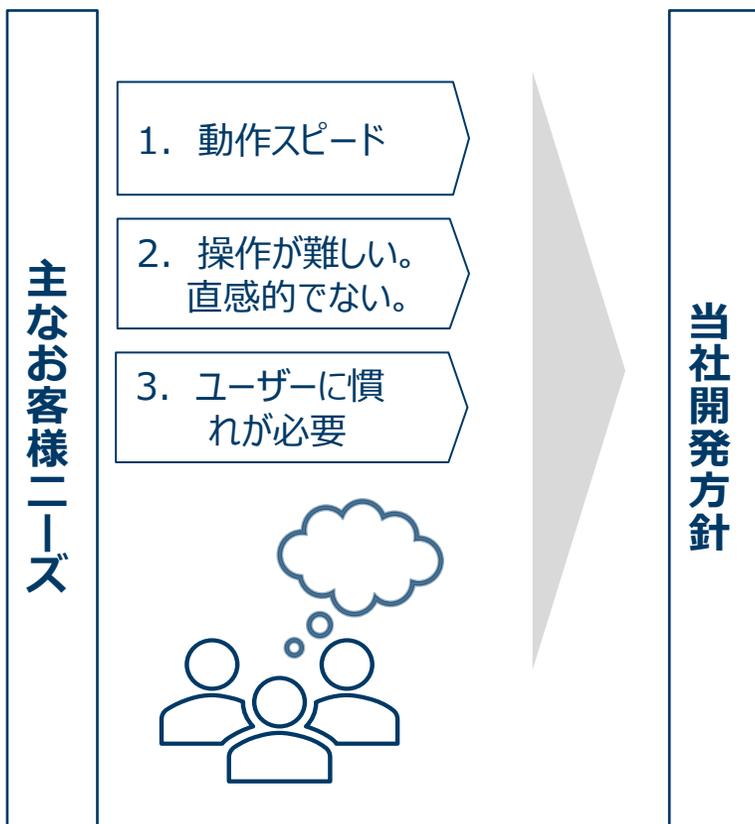
24年7月期は、ウクライナ侵攻・イスラエル紛争の長期化によるエネルギー高・材料高や急激な為替変動等発生しましたが、米国における積極的な営業活動やロイヤルカスタマー創出が実り、継続案件の受注増により米国の売上が大きく増加致しました。引続き、当社サービスを日米で積極的に展開し、グループ全体の成長を図ります。また、お客様内で発展的に提案解析を進め多くの部署に展開して頂くことで、お客様と共に生涯価値を最大化しロイヤルカスタマーを創出してまいります。



※ イメージ図（実際の業績ではありません）

今後の事業成長イメージ②：VALUENEXレーダーの開発

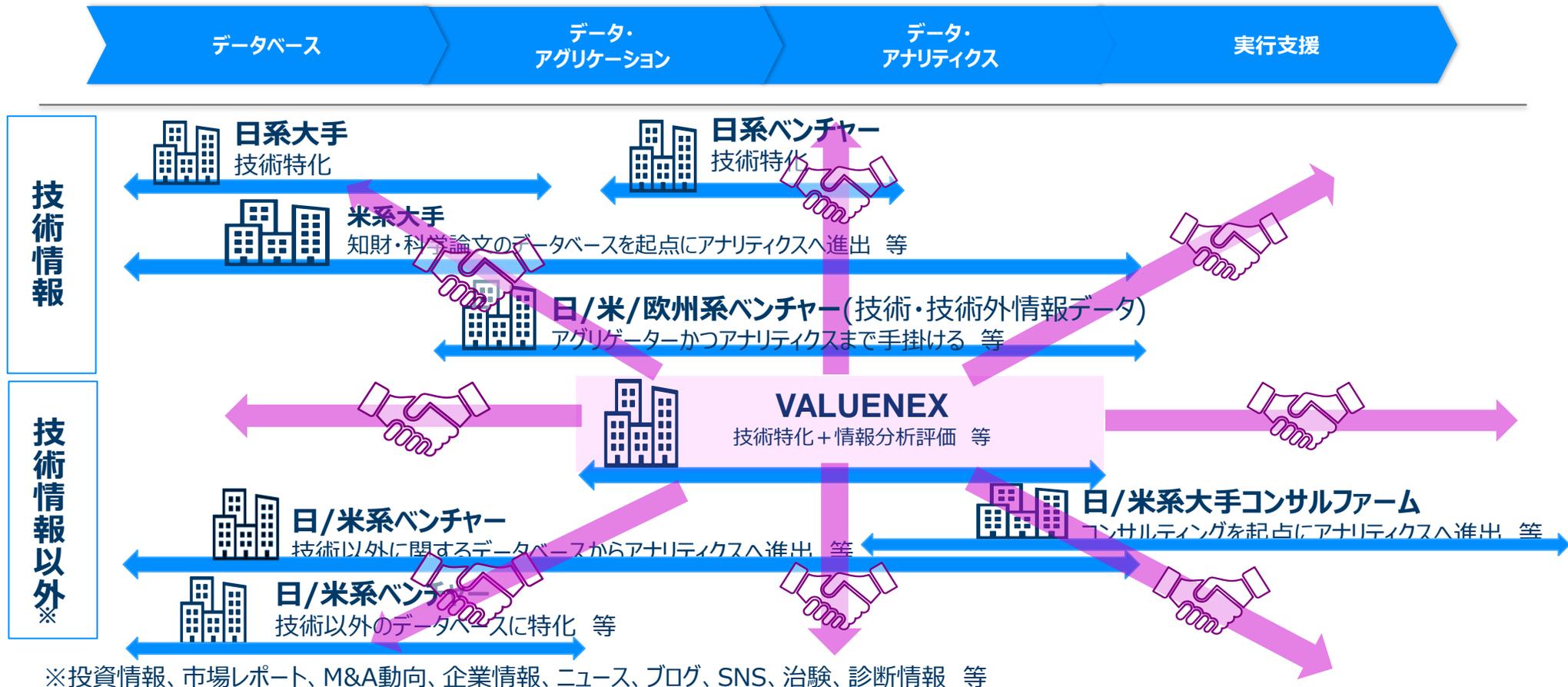
24年7月期は、生成AIを活用した要約機能(Area Summarizer)の開発、異種データ融合・大規模データ分類マップ解析を可能にするツール(VALUENEX Radar Fusion)の開発・開発現場で活用される品質表を自動生成するツール(Radar QFD)開発着手、アプリ版の機能向上等を進めました。引続き研究開発推進、エンジニア人材の強化を通じ、製品・サービスの一層の向上に努め、事業成長に繋げてまいります。



今後の事業成長イメージ③：グローバルなパートナーシップ

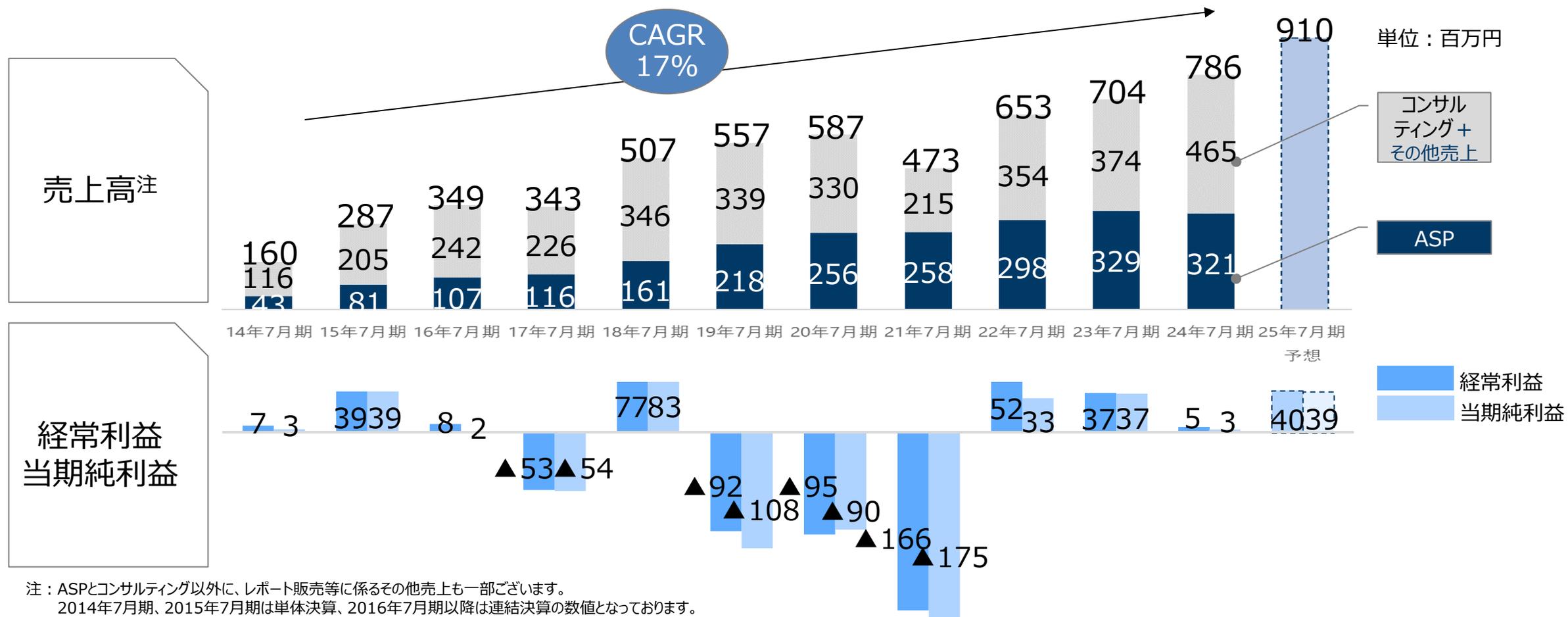
24年7月期は、米国での様々な組織とのコラボレーションやスタンフォード大学のインターン採用の他、各国現地法人・機関とパートナーシップを進め、米国の売上が大きく増加致しました。また、量子ビジネスでの米国大使館・日本政府(経産省・内閣府)、日経大手企業等とのネットワーキングを進めております。

引続き、異なる強みを持つ法人と積極的なパートナーシップを検討してまいります。



主な経営指標と業績推移

高い成長性と収益性及び企業価値の向上が経営上の重点課題と認識しており、成長性については売上高を、収益性については経常利益を経営指標としております。24年7月期は、主にUSにおけるコンサルティングがデータ解析ニーズの高まりにより受注が伸び、人材投資等により減益したものの、3期連続の黒字となりました。

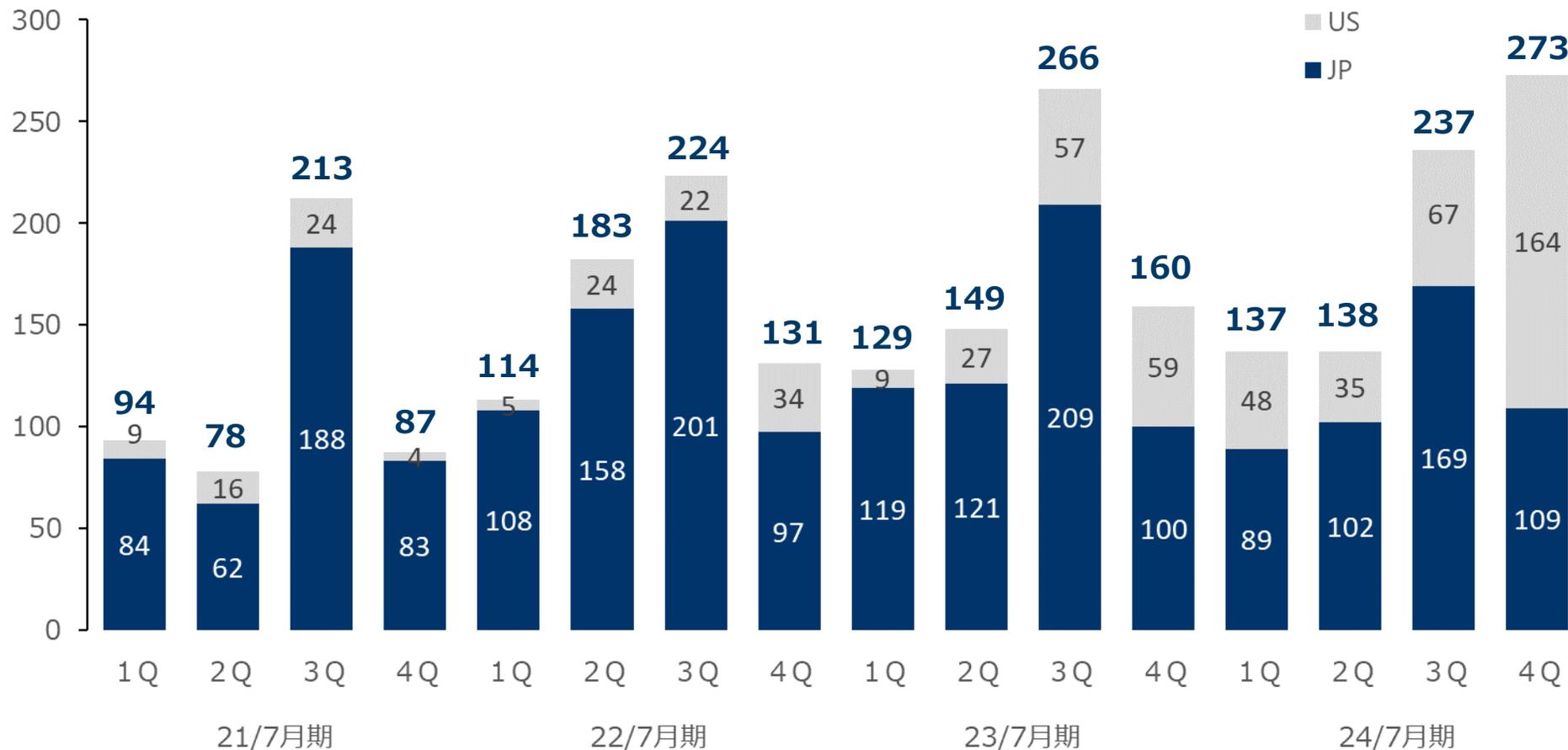


注：ASPとコンサルティング以外に、レポート販売等に係るその他売上も一部ございます。
2014年7月期、2015年7月期は単体決算、2016年7月期以降は連結決算の数値となっております。

連結売上高の推移（地域別）

US：1~4Qの各期・通期で前年を上回りました。

JP：4Qは前年を上回ったものの、通期で前年を下回りました。

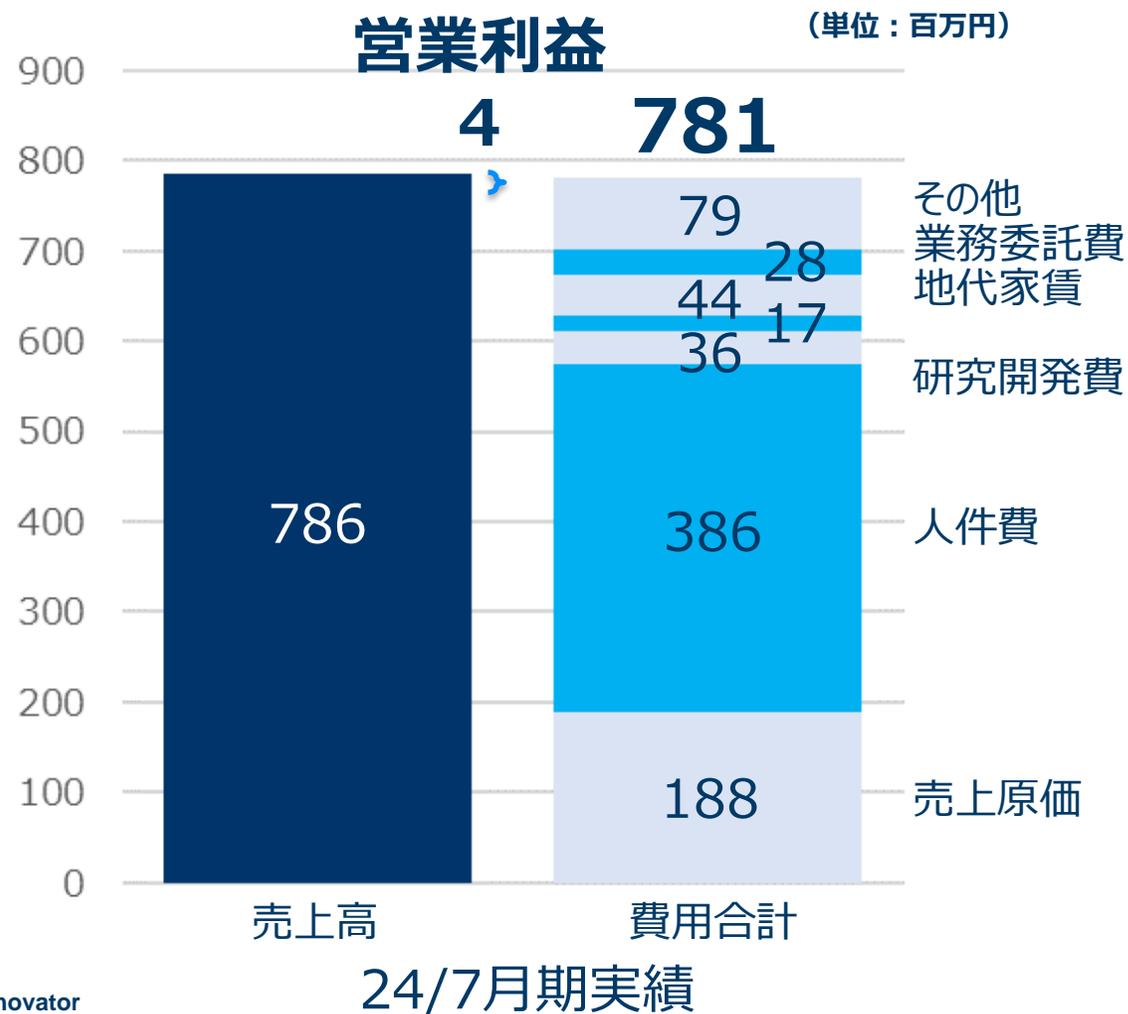
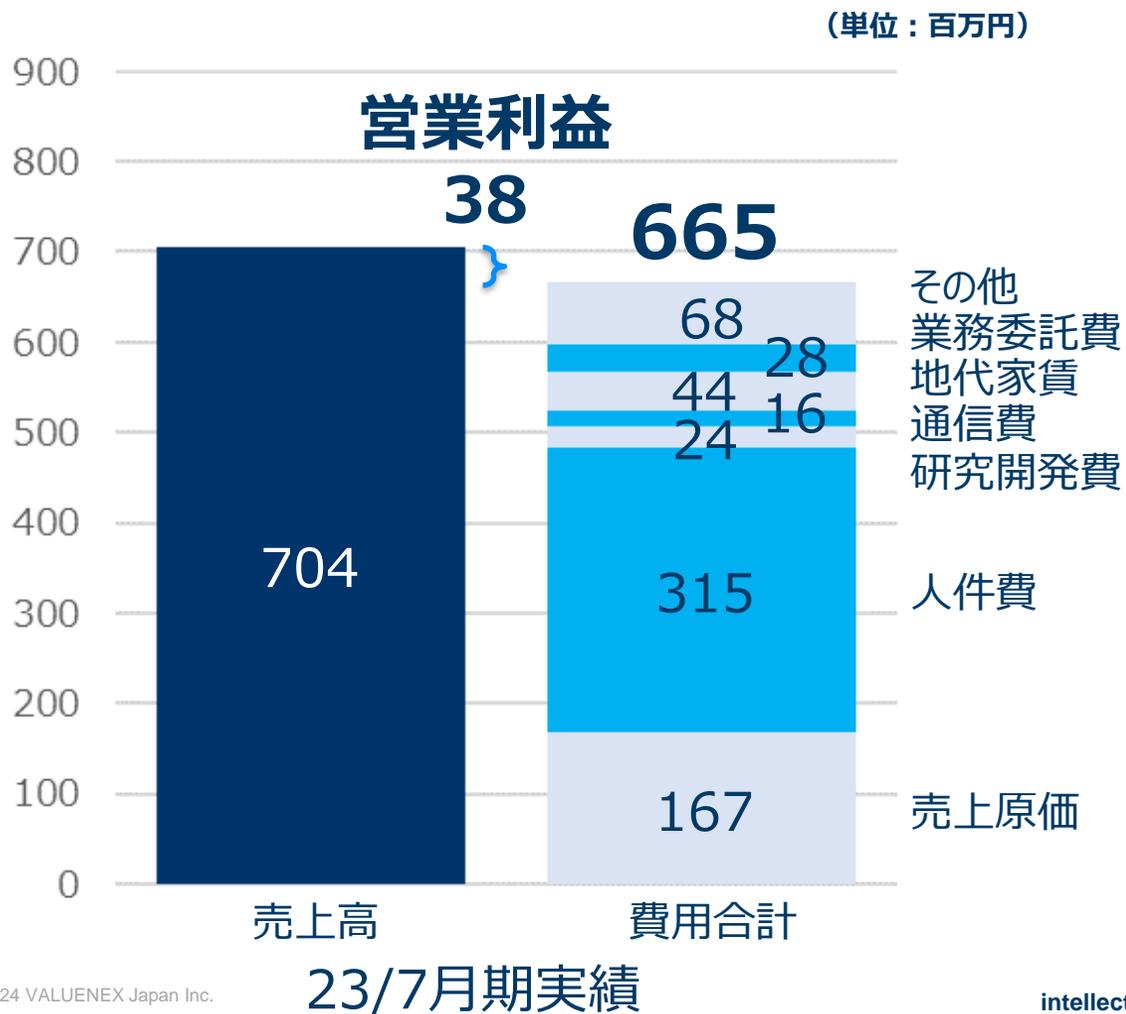


	前年比	
	18期4Q	18期通期
連結	+70.7%	+11.6%
US	+174.5%	+104.8%
JP	+8.9%	▲14.4%

連結営業費用の内訳

売上原価の増加：売上高の上昇に伴う増加です。

人件費の増加：社員・USインターンの延べ人数が増えたことによる増加です。



認識するリスクと対応策

以下は、成長の実現や事業計画の遂行に重要な影響を与える可能性があるとして認識する主要なリスクです。その他のリスクについては、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

技術	発生可能性 中 発生時期 常時	リスク	当社グループは、独自の解析技術に基づいて事業を展開しておりますが、当該分野はAI領域含め新技術の開発が相次いで行われ、非常に変化の激しい業界となっております。そのため、事業展開上必要となる知見やノウハウの獲得に困難が生じた場合、また技術革新に対する当社グループの対応が遅れた場合、さらに、新技術への対応のために追加的なシステム、人件費などの支出が拡大する場合等には、業績に影響が生じる可能性があります。
		対策	変化の激しい業界に対応すべく、上記のような業界特性、業界環境を踏まえ、エンジニアの採用・育成や職場環境の整備、AIやビッグデータ分析に関する技術、知見、ノウハウの取得・応用を最重要課題の一つとして注力しております。また、技術革新や新技術へ投資コストを管理しつつ柔軟に対処して今後も一層強化してまいります。
人材	発生可能性 中 発生時期： 常時	リスク	当社グループは、人員規模が小さく、社内体制も会社規模に応じたものであります。そのため今後更なる業容拡大を図るためには、事業の中核となるコンサルタントや営業担当者に加え、当社グループ独自の技術を継承し発展させる技術者の維持と拡充が重要であると認識しております。しかしながら、このような人材の確保・維持が出来ない場合、あるいは役員及び社員が予期せず退任又は退職した場合には、当社グループが誇るサービスレベルの維持が困難となり、組織活動が鈍化し、業容拡大の制約要因となる場合には、業績に影響が生じる可能性があります。
		対策	人材の採用のため多様な採用手法を用いて、エンジニアをはじめ優秀な人材の獲得に努めております。また、OJTや教育研修を実施し、技術的な知見・ノウハウの取得に注力しております。なお、従業員数の推移詳細は、有価証券報告書の主要な経営指標をご参照ください。
市場	発生可能性 小 発生時期 常時	リスク	当社グループの解析技術は、独自の技術であり、他社による模倣は困難であると考えておりますが、巨大資本のデータベース事業会社が当社グループの解析技術市場に参入しない保証はなく、参入があった場合には、業績に影響が生じる可能性があります。
		対策	市場・お客様ニーズを的確に捉えて開発し、独自技術を進化させるとともに、積極的にパートナーシップを組み、当社独自の一気通貫サービスを構築することで、より良いサービスをワンストップで提供する態勢を整え、差別化を図ってまいります。
災害・疾病	発生可能性 中 発生時期 常時	リスク	地震、津波、台風等の自然災害及び火災並びに疫病等の発生により弊社お客様の事業へ影響が出た場合、新規契約獲得ペースの鈍化や、お客様の事業コスト見直しにより、コンサルティングサービスの受注減やASPサービスの解約増加が生じる可能性があります。
		対策	自然災害や疾病等による景気変動に影響を受けやすいコンサル事業の他に、これらの動向の影響を比較的受けにくいASP事業でリスクの分散を行っております。また、幅広い業種においてサービスを提供することにより環境変化の影響を受けにくい収益構造となることを目指しております。その他、拠点分散やフルリモート勤務によるBCP対策も行っております。

免責事項

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点において入手可能な情報、現在一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されたものです。

実際の業績は、経済・社会情勢やお客様のニーズ・嗜好の変化、他社との競合状況、法規制の動向等、さまざまな不確実要素によって今後見通しと大きく乖離する可能性があり、本資料は将来の結果や業績を保証するものではありません。

本資料のアップデートにつきましては、今後、通期決算後3カ月以内の10月を目処に開示する予定です。



Appendix

VALUENEX

VALUENEX サービスアウトライン

サービス	概要	解析対象テキストデータ				
<p>コンサルティング</p>	<ul style="list-style-type: none"> ご要望に応じてVALUENEXが調査・分析を実施。弊社コンサルタントが弊社のSaaSを活用し、お客様とともに課題解決を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象データはご相談の上決定 <ul style="list-style-type: none"> ・特許 ・論文 ・その他文献 				
<p>VALUENEX Radar (SaaS)</p>	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる情報源から技術動向分析、新規事業創出、市場ニーズ把握など様々なビジネス戦略に活かせるデータ解析ツールです。 <ul style="list-style-type: none"> ・非特許文献（論文、アンケート、VOCなど） ・特許文献問わず、多種多様なテキストデータを解析 ・高速1,000件～最大10万件の文献を読み込み可能 ・Scope、Startup Finder等 	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる文献 <ul style="list-style-type: none"> ・特許 ・論文 ・ニュース、SNS ・新聞、雑誌 ・アンケートなど ・貴社内各種データ ・スタートアップデータ ・その他テキストデータ <p>※特許DBはオプション販売有</p>				
<p>VALUENEX Radar サポートサービス</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="410 843 718 1005"> <p>伴走サービス</p> </td> <td data-bbox="718 843 1964 1005"> <ul style="list-style-type: none"> VALUENEX導入後の活用不安をお持ちの方、また初めて俯瞰解析に携わる方に、お困りの点について伴走をさせていただきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・部門、ご自身の俯瞰解析スキルを向上させたいという方 ・一定レベルの俯瞰解析スキルをみにつけたいという方 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="410 1005 718 1183"> <p>コーチング</p> </td> <td data-bbox="718 1005 1964 1183"> <ul style="list-style-type: none"> VALUENEX Radarご利用のお客様向けのアシストサービス お客様とともにトータルで俯瞰解析のコーチングを実施させていただきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・より付加価値のある解析を行いたい、特定のテーマに関する解析を全面的にサポート ・解析観点や方法の設定、まとめ方等に不安がある方 ・DX人材、データサイエンティスト育成を検討されている方 </td> </tr> </table>	<p>伴走サービス</p>	<ul style="list-style-type: none"> VALUENEX導入後の活用不安をお持ちの方、また初めて俯瞰解析に携わる方に、お困りの点について伴走をさせていただきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・部門、ご自身の俯瞰解析スキルを向上させたいという方 ・一定レベルの俯瞰解析スキルをみにつけたいという方 	<p>コーチング</p>	<ul style="list-style-type: none"> VALUENEX Radarご利用のお客様向けのアシストサービス お客様とともにトータルで俯瞰解析のコーチングを実施させていただきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・より付加価値のある解析を行いたい、特定のテーマに関する解析を全面的にサポート ・解析観点や方法の設定、まとめ方等に不安がある方 ・DX人材、データサイエンティスト育成を検討されている方 	<p>※特許DBはオプション販売有</p>
<p>伴走サービス</p>	<ul style="list-style-type: none"> VALUENEX導入後の活用不安をお持ちの方、また初めて俯瞰解析に携わる方に、お困りの点について伴走をさせていただきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・部門、ご自身の俯瞰解析スキルを向上させたいという方 ・一定レベルの俯瞰解析スキルをみにつけたいという方 					
<p>コーチング</p>	<ul style="list-style-type: none"> VALUENEX Radarご利用のお客様向けのアシストサービス お客様とともにトータルで俯瞰解析のコーチングを実施させていただきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・より付加価値のある解析を行いたい、特定のテーマに関する解析を全面的にサポート ・解析観点や方法の設定、まとめ方等に不安がある方 ・DX人材、データサイエンティスト育成を検討されている方 					
<p>カスタム開発 (協業による新規事業開発)</p>	<ul style="list-style-type: none"> お客様が提供するサービスへ俯瞰解析機能を付加、または新しく解析ツールを開発する等、新規事業を共同開発します。 例) Stand Aloneサービス、API提供 	<ul style="list-style-type: none"> ご相談 				

代表取締役社長が特許情報普及活動功労者に表彰

代表取締役社長の中村達生が、2019年3月に、平成30年度特許情報普及活動功労者表彰において、一般財団法人日本特許情報機構理事長賞を受賞いたしました。

三菱総合研究所（MRI）に入社され、オペレーションズ・リサーチ、知財分析、データマイニングなどを研究対象の専門分野とする一方、各種分野における一般的な知財調査のみならず、技術動向調査、研究開発マネジメント、知財分析など様々な業務に取り組みました。それらの業務経験を活かし、また、経験に基づいてその必要性に関する知見を得て、可視化アルゴリズムや俯瞰解析ソフトウェアを開発されました。MRIでは、これらを利用した無料サービスの提供等を行われておりました。

その後、2006年に株式会社創知を設立し、代表取締役 CEO に就任されました。2007年4月に特許可視化ツール XLUS(カイラス)、2012年11月に TechRadar on Cloud、2013年11月に DocRadar on Cloud のサービスを開始しております。

VALUENEX 株式会社への社名変更後、シリコンバレー進出、2018年10月には東証マザーズ上場など、知財調査・ビッグデータ・予測分析分野でイノベーションを起こしております。

研究を進めてきた技術については、各種学会への論文の寄稿・発表等が行われ、特許出願により日本と米国の特許も保有されております。

VALUENEX のサービスのコアとなる技術は、元々中村氏が研究開発したものであり、これらの技術を利用した特許情報の可視化・分析は現在、特許情報業界に限らず新規事業創出やベンチャーへの投資検討などのイノベーション分野で脚光を浴びており、中村氏の技術研究、活用研究は、特許情報業界に大きな貢献をもたらしたものといたします。



Japan-US Innovation Awards 2019 - Innovation Showcase - を受賞

2019年5月に、当社はスタンフォード大学のUS-Asia Technology Management Center および Japan Society of Northern California が主催する Japan-US Innovation Awards 2019 において Innovation Showcase 企業に選定されました。

同年7月には、同大学の Arrillaga Alumni Center にて授賞式およびシンポジウムが開催され、講演および展示をいたしました。



VALUENEX

For more information, contact:

www.valuenex.com
customer@valuenex.com